

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

<心をつなぎ 笑顔いっぱい みんなが輝く平戸台っ子>
○めあてに向かって 粘り強く取り組み 互いに学びあえる子を育てます。(知)
○自分も友達も大切に 心豊かな子を育てます。(徳)
○心と体を大切に たくましく生きる子を育てます。(体)
○住んでいるまちのよさを知り 共に生きていこうとする子を育てます。(公)
○社会への視野を広げ 柔軟に対応できる子を育てます。(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

<言語能力> <自分づくりに関する力>

具体化した資質・能力

思ったこと感じたことを言葉にして表現する力
伝える内容を明確にしようと判断する力
相手を受け入れるために必要な言動を思考する力

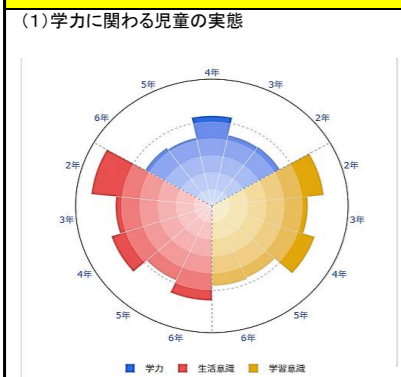
中期取組目標

○子ども一人ひとりの思いや願いを大切に、自ら学び続ける児童を育てます。
・1年目は、わかるかも、できるかもから学習の楽しさを実感できる授業づくりを進めます。
・2年目は、子どもの表現を大事にしなが伝え合う力を育てます。
・3年目は、伝え合うことで自分の考えを深めることができるようにします。
○日々の観察とデータを活用しながら、子ども一人ひとりの変化を捉え、学びの充実に生かします。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (授業改善) and 具体的取組 (①指導を明確にして、育成する資質・能力に合った単元づくりをする。②ICT機器を活用して、児童が自分にあった方法を選択できるような支援や、課題解決を図るための協同的な学びを意図的に授業で行う。③粘り強く自己調整を図ることができるように、学び方を適宜指導し、自分自身の学びを選択しながら学ぶことができるようにする)

学力向上に関わる本校の状況



(2)これまでの学校の取組状況
本校では、教育課程全体で「心をつなぎ 笑顔いっぱい みんなが輝く平戸台っ子」を育てるために、「ひらりんCha-Cha-Cha～学びのチャンス 可能性にチャレンジ 自信と元気をチャージ」を言葉に子ども・教職員・地域が一体となって教育活動の実践をしている。児童のコミュニケーションの課題克服のために、「伝え合う言葉の力」を伸ばすための取組を進めてきた。引き続き、「伝え合う」場を意図的に設定することで自分らしさをのびのび発揮できるようにするとともに、子どもたちが「授業がよくわかり、楽しい」と感じることができるよう学びを支えていきたい。

今年度の目標

①教師が目の前の子どもに応じた具体的手立て(個別最適な学び)を考えたり、子どもが「わかる(かも)」「できる(かも)」と共に期待できる授業づくり(協同的な学び)を目指したりする。②「○○の力を育てるために、～を行う。」という教師の育てたい力を明確にした授業デザイン(ICTの活用・自己調整)をする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
*育てたい力を身に付けさせるために、必要に応じてICTの活用や、自己調整できる学びの場を設定する。
【低学年】身近な仲間やまちに親しみ、思いを伝えようとする力
・互いの話に関心をもって聞いたり、自分の思いをもったりして、身近な仲間に話をする。
・身近な仲間と一緒にチャレンジする。
【中学年】日常生活と学習をつなげながら、相手の思いを受け止めて聞いたり話したりする力
・グループ活動を取り入れ、自分の思いや考えを伝え、友達の思いを受け止めようとする。
・必要に応じて様々な資料を活用し調べ学習をする。
【高学年】他者との関わりの中で課題を解決し、適切な言葉で表現する力
・様々な活動を通して、相手の思いを想像しながら聞いたり、自分の思いを伝えたりしようとする。
・課題解決に向けて体験活動を取り入れながら、感じたことを自分の言葉で表現する時間や交流する時間を設定する。

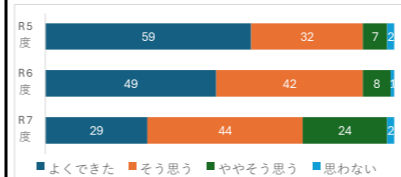
下半期
*育てたい力を身に付けさせるために、引き続き必要に応じてICTの活用や、自己調整できる学びの場を設定する。
○重点授業研究を通して、指導事項を明確にし、育成する資質・能力にあった単元づくりを行う。
【低学年】身近な仲間やまちに親しみ、思いを伝えようとする力
・互いの話に関心をもって聞いたり、自分の思いをもったりして、身近な仲間に話をする。
・身近な仲間と一緒にチャレンジする。
【中学年】日常生活と学習をつなげながら、相手の思いを受け止めて聞いたり話したりする力
・グループ活動を取り入れ、自分の思いや考えを伝え、友達の思いを受け止めようとする。
・必要に応じて様々な資料を活用し調べ学習をする。
【高学年】他者との関わりの中で課題を解決し、適切な言葉で表現する力
・様々な活動を通して、相手の思いを想像しながら聞いたり、自分の思いを伝えたりしようとする。
・課題解決に向けて体験活動を取り入れながら、感じたことを自分の言葉で表現する時間や交

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (人権教育) and 具体的取組 (①たてわり活動や異学年交流を通して、相手の話をよく聞き、互いの人格を尊重し、思いやりをもった心情や態度を育てる。②校内や地域等日常的に、気持ちのよい挨拶や返事をしたり、コミュニケーションの大切さを自分事として捉え、考えて行動したりする子どもを育てる。③体験活動を多く取り入れ、豊かな感性を育てる。)

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童の実態
・年間を通じたたてわり活動への意識のあらわれ(R5-7年度学校評価 児童アンケートより)
『いろいろな学年の人ともなかよく活動できました。』・・・昨年度は肯定的回答が18%減少。特に「あまりそう思わない」と回答する低学年児童が約半数であった。



・本校の児童は素直で人懐っこく、優しい気持ちをもつ児童が多い。何事にも真面目に取り組む姿も見られる。一方、シャイな部分もあり、挨拶では目が合わない児童も少なくない。また、自分本位の考え方で他のよさを認められない傾向もある。そこで 他との関わりを通して、他者を尊重する態度を大切に、気持ちのよいコミュニケーションを育んでいきたい。自他のよさを認め合い、人権意識をもち、良好な人間関係を築けるようにしていきたい。

(2)これまでの学校の取組状況
・集団登校や年間を通じたたてわり活動などの中で、異学年とのかかわりや、憧れや思いやりを育む活動を行っている。
・様々な学習活動の中で、保護者や地域などのボランティア(『台小サポーターズ』)とのかかわりを多くもつようになっている。
・体験的学習を多く取り入れ、「本物」に触れる機会をつくって心を動かす、実感の伴う活動を目指している。

今年度の目標

○ 他者を思いやり、違いを受け入れる態度を大切にし、気持ちのよいコミュニケーションを育む。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
○「人」
・たてわり活動などを通して、日常的に異学年との関わりを築く。
・ボランティアと連携した体験活動を多く取り入れる。
・児童運営委員会を中心とした、あいさつ運動を行う。
○「授業」「学びの場」
・保護者や地域に向けて、全学級での道徳授業公開を年1回以上実施する。
・総合的な学習の時間や宿泊体験学習において「本物」に触れたり、他者と共に協力したりしながら、主体的にチャレンジする機会を意図的に設定する。
・YPの考え方を取り入れた授業や学級経営を行う。
・取り出し指導や国際教室などの特別支援教育、個別最適な学びの場を整備・保障し、柔軟な選択ができるようにする。
○「ことば」
・日常的に「ふわふわことば」を増やし、「ちくちくことば」を言い換えていくようにする。
・場に応じた、適切な声の大きさや、気持ちのよい言葉遣いや態度を意識する。

下半期
○「人」
・ボランティアと連携した体験活動やたてわり活動などを通して、日常的に他者との関わりやふれあいをもち、良好な人間関係を築く。
・児童運営委員会を中心とした、あいさつ運動を行う。
・「人権週間」や「国際週間」では自他を大切に、多様性を認める態度を育む。
○「授業」「学びの場」
・保護者や地域に向けて、全学級での道徳授業公開を年1回以上実施する。
・「読書週間」では進んで本に親しみ、豊かな感性を育むようにする。
・理科や音楽、総合的な学習の時間などでは「本物」に触れ合う豊かな体験活動を通して、創造性を生み出し、更なる広がりや深まり、高まりを目指す。
・YPの考え方を取り入れた授業を行う。
・取り出し指導や国際教室などの特別支援教育、個別最適な学びの場を整備・保障し、柔軟な選択ができるようにする。
○「ことば」
・日常的に「ふわふわことば」を増やし、「ちくちくことば」を言い換えていくようにする。
・場に応じた、適切な声の大きさや、気持ちのよい言葉遣いや態度を意識する。

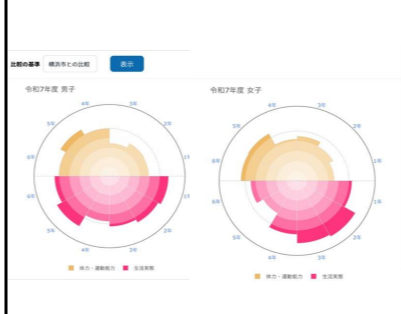
健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健康教育) and 具体的取組 (①教科学習、たてわり活動、朝ヨガ等を通じて体を動かす機会を設け、運動の楽しさを感じられるようにする。②学級活動、給食指導、教科指導(保健)、学校保健委員会等を通じて、健康に対する意識を高める。③体力テストを基に児童の実態に合った体力の向上を意識した授業づくりを行う。)

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態
○横浜市体力・運動能力調査では、「朝ご飯を食べない」児童が一定数いる。その原因としては、夜遅くまでゲームやネット、SNSをしているなどの理由で寝る時刻が遅くなり、朝起きられず朝食を食べないという生活習慣の乱れが見られる。また、運動不足や生活リズムの乱れから体調を崩す子どもが多い。
○朝会や授業中の様子を見ていると、姿勢保持が難しい児童が見受けられる。

(2)これまでの学校の取組状況
○朝の時間を使って「朝ヨガ」を行い、体の柔軟性を高めるとともに体を動かす機会を作った。
○運動会や「たてわりなわとび」などたてわり活動を軸とし、学校全体で運動に取り組んできた。



今年度の目標

○健やかな体に関する取組について、具体的な実践を考えることで主体的に生活習慣を改善しようとする態度を育成する。
○休み時間に校庭へ出て、児童が進んで楽しく体を動かす機会を設ける。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
○課題解決に向けた具体的な実践につなげられるようにするために、横浜市体力・運動能力調査や健康診断の結果を一人ひとりの児童が確認する。
○自分の生活習慣を振り返り、規則正しい生活習慣を整えられるようにするために、長期休業に生活リズムカードを実施する。
○正しい姿勢を保つために必要な筋力を身につけ心身ともに健康な毎日を過ごすために、ヨガ運動に取り組む。
○学校保健委員会では、ゲーム・ネット依存をテーマに久里浜医療センターの三原聡子先生を講師にお迎えし、心とからだにどのような影響を及ぼすのか講演いただく。

下半期
○楽しみながら自分の成長が実感できるように、縄跳びタイムを体づくり委員会中心に運営する。
○自分の生活習慣を振り返り、規則正しい生活習慣を整えられるようにするために、チャレンジ週間に取り組んだり、長期休業に生活リズムカードを実施したりする。
○正しい姿勢を保つために必要な筋力を身につけ心身ともに健康な毎日を過ごすために、ヨガ運動に取り組む。
○学校保健委員会では、ゲーム・ネット依存をテーマに久里浜医療センターの三原聡子先生を講師にお迎えし、心とからだにどのような影響を及ぼすのか講演いただく。